

令和7年度 発達障害者相談支援研修 「相談支援知識力向上研修」 実施報告

第2回東京都発達障害者支援地域協議会
令和8年2月16日(月)

社会福祉法人 正夢の会
理事長 山本あおひ

研修概要

目的：区市町村の相談支援員やサービス提供事業者に対して、発達障害児（者）支援に必要な体系的・実践的な技術の習得に係る研修を実施することにより、区市町村における発達障害児（者）の支援体制整備を推進する。

対象：区市町村等の相談支援員、放課後等デイサービス、就労継続支援等の障害福祉サービス従事職員等

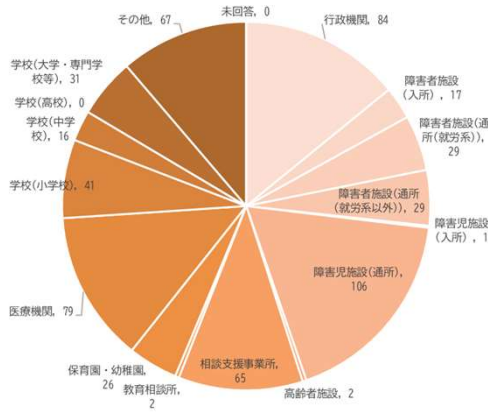
内容

	日程	応募/参加	研修内容	講師	所属
第1回	10月11日 (土)	140名中 100名 71.43%	① 発達障害の特性	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
			② 自閉症の人の支援	新井 豊吉氏	東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科 特任教授
第2回	10月25日 (土)	108名中 75名 69.44%	① 構造化	安倍 陽子氏	川崎医療福祉大学 非常勤講師 公認心理師・臨床心理士
			② ASDのコミュニケーション支援	諏訪 利明氏	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 准教授
第3回	11月8日 (土)	152名中 100名 67.76%	① 発達障害・自閉スペクトラム症の支援 ～行動障害とABAに基づいた支援～	井上 雅彦氏	鳥取大学 大学院医学系研究科 臨床心理学講座 教授
			② 発達障害の相談支援	中山 正行	正夢の会レスポーンいなぎ施設長 社会福祉士・公認心理師
			③ アセスメントツールの導入 ～現場の実践から～	森 裕幸氏	埼玉学園大学 人間学部 心理学科 専任講師・公認心理師
第4回	12月6日 (土)	91名中 64名 70.33%	① 「それぞれの専門性を高める」 ～作業療法士の視点から～	酒井 康年氏	うめだ・あけぼの学園 作業療法士・学園長
			② 「それぞれの専門性を高める」 ～言語聴覚士及び心理士の視点から～	志村 みさと 結城 綾	正夢の会中野区療育センターゆめなり副施設長・言語聴覚士 正夢の会レスポーンいなぎ平尾主任・公認心理師
第5回	1月10日 (土)	105名中 70名 66 67%	① 大人の発達障害 ～就労に向けての評価と実際～	梅永 雄二氏	早稲田大学 教育学部 教育心理学専修 教授
			② 発達障害のある大学生 ～学生の自立と家族の支援～	五味 洋一氏	群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害者学生支援室長 准教授
			③ 成人期ダイアケアにおける発達障害専門 プログラム	横井 英樹氏	昭和医科大学発達障害医療研究所、昭和医科大学岡山病院 臨床心理士・公認心理師・訪問型職場適応援助者

参加者の概況(所属)

申込者数：596人 参加者数：412人 参加率：69.13%
(令和7年度実績：全5回分)

【所属別】

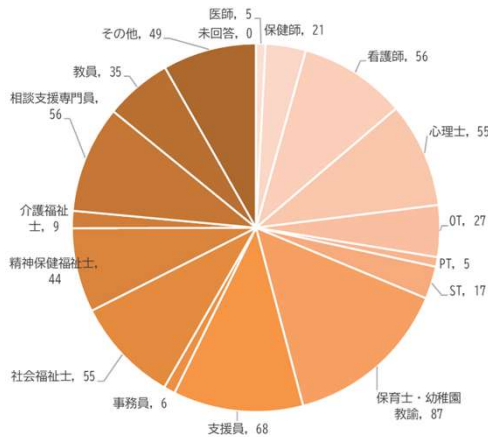


所属別	人数	割合
行政機関	84	14.12%
障害者施設(入所)	17	2.86%
障害者施設(通所(就労系))	29	4.87%
障害者施設(通所(就労系以外))	29	4.87%
障害者施設(入所)	1	0.17%
障害児施設(通所)	106	17.82%
高齢者施設	2	0.34%
相談支援事業所	65	10.92%
教育相談所	2	0.34%
保育園・幼稚園	26	4.37%
医療機関	79	13.28%
学校(小学校)	41	6.89%
学校(中学校)	16	2.69%
学校(高校)	0	0.00%
学校(大学・専門学校等)	31	5.21%
その他	67	11.26%
未回答	0	0.00%
合計	595	100.00%

参加者の概況(職種)

申込者数：596人 参加者数：412人 参加率：69.13%
(令和7年度実績：全5回分)

【職種別】

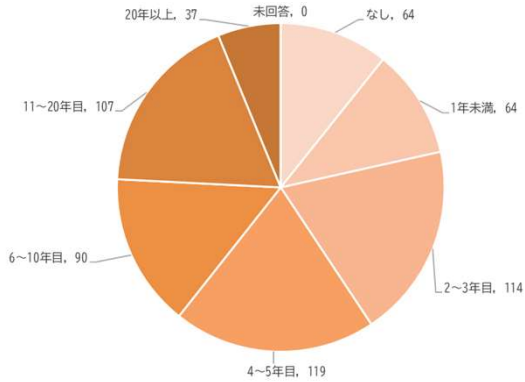


職種別	人数	割合
医師	5	0.84%
保健師	21	3.53%
看護師	56	9.41%
心理士	55	9.24%
OT	27	4.54%
PT	5	0.84%
ST	17	2.86%
保育士・幼稚園教諭	87	14.62%
支援員	68	11.43%
事務員	6	1.01%
社会福祉士	55	9.24%
精神保健福祉士	44	7.39%
介護福祉士	9	1.51%
相談支援専門員	56	9.41%
教員	35	5.88%
その他	49	8.24%
未回答	0	0.00%
合計	595	100.00%

参加者の概況(経験年数)

申込者数：596人 参加者数：412人 参加率：69.13%
(令和7年度実績：全5回分)

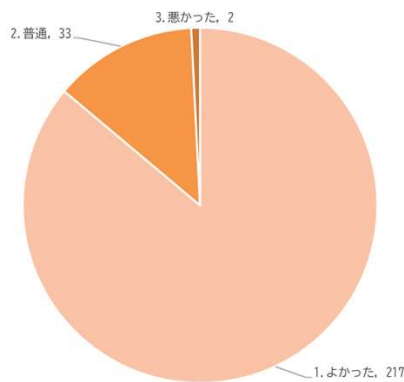
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	64	10.76%
1年未満	64	10.76%
2~3年目	114	19.16%
4~5年目	119	20.00%
6~10年目	90	15.13%
11~20年目	107	17.98%
20年以上	37	6.22%
未回答	0	0.00%
合計	595	100.00%

参加者の概況(オンラインについて)

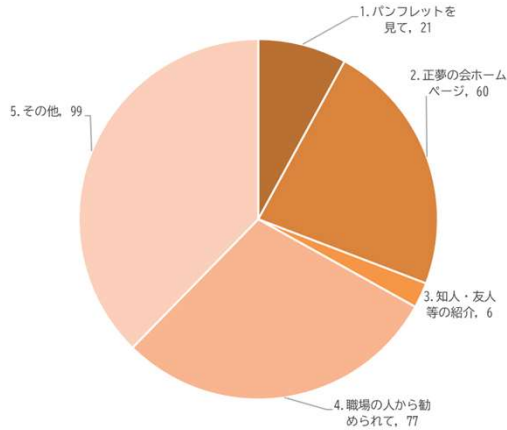
申込者数：596人 参加者数：412人 参加率：69.13%
(令和7年度実績：全5回分)



評価	人数	割合
よかった	217	86.11%
普通	33	13.10%
悪かった	2	0.79%
合計	252	100.00%

参加者の概況(研修を知ったきっかけ)

申込者数：596人 参加者数：412人 参加率：69.13%
(令和7年度実績：全5回分)



経路	人数	割合
パンフレットを見て	21	7.98%
正夢の会ホームページ	60	22.81%
知人・友人等の紹介	6	2.28%
職場の人から勧められて	77	29.28%
その他	99	37.64%
	263	100.00%

アンケート結果

① 「発達障害の特性」 市川 宏伸 氏

- 発達障害を持つ当事者だけではなく、その家族の支援を行う事はとても大切であるとわかりました。今回の講義の中で、発達障害を持つ方の薬物治療について関心を持ちました。普段支援を行っている利用者様が使用している薬について詳しく知る事が出来ました。どのような効果があるのか、薬によって副作用が強いものなど、また薬によってその特性が異なる事がわかりました。利用者様の二次的症狀(行動)には有効である事がわかりました。
- 上記の他、薬に関するコメントが多くあり、普段情報が少なくいい機会となったようです。
 - ・医療的視点から薬物治療の取り入れ方とそれぞれの薬についての効果などを知る事が出来た。
 - ・発達障害によく使われている薬や、薬の種類、効果を詳しく知る事が出来た。
 - ・発達障害の理解や判定方法、処方薬を複数の領域から多角的に理解する事が大切だという事がわかりました。
 - ・薬が補助手段であり、本人の特性を理解した個別支援が大切であることを学びました。
 - ・発達障害者支援法の現在までの歴史や、薬、概念などの専門的な内容も多くやや難しく感じましたが、勉強になりました。
 - ・内服薬について再確認でき、薬は補助的なものと知る事が出来ました。
 - ・発達障害者の支援、発達障害者法の理念、治療薬について等多岐にわたり基本的なことを学べてよかった。
 - ・発達障害の歴史や種類、診断方法や治療薬など全般的な内容を学ぶ事が出来た。これまで知らない事も多く、勉強になった。
 - ・医療的な支援が今まで欠けていたので、薬の内容とどんな時に使うのか知る事が出来た。
- 支援者として、医学的なことが抜けがちなため、三者(医学、教育、福祉)が協力をして支援をしていく事を改めて気づく事が出来ました。発達障害における法律の変化、薬物治療を知るという事は支援者にとって非常に大事なことだと思うため、学び続けて行きたいと思う。
- 発達障害の歴史をわかりやすく説明して下さい、新たな視点で子どもに関わる事が出来そうだと思います。中年以降の方は適切な環境の中で過ごして来られなかった方が多くいる事がわかり、その世代の方のフォローも必要と思いました。また、発達障害者支援法に関連した意見も目立ちました。発達障害者支援法が出来るまでの背景を知る事が出来て良かった。服薬の意味(症状が軽減している間に周囲が適切な対応をする事で、自己有能感を保ち、二次的問題の発生を防ぐことが出来る事)が学べてよかった。

アンケート結果

② 「自閉症の人の支援」 新井 豊吉 氏

- 動画を見る事でより理解が深まりました。自発的コミュニケーションの大切さが印象に残りました。現在たまたまなのか支援によって子どもが落ち着いて過ごし、他害が減っている現状があります。アセスメントが重要である事も納得できました。他にも動画や実践例、具体的な映像が多く示されているため理解が深まったという意見があり好評でした。
- その子その子に合わせる具体的な方法を構造化の取り組みのビフォーアフターをいくつも示していただき、大変解り易かったです。支援者の庄でやらせないで構造化する事で、最初はゆっくりでも自発的にできる力が付く例など、解っているようでわかっておらず、目からうろこでした。
- 新井先生の考え方、本人やご家族へ寄り添った支援がとても素敵であったという間に研修の時間が過ぎました。画像や事例が多く、具体的に解りやすい内容で、絵カードなど実際に使用しているものを見る事が出来て、今後作成するなどに参考になります。
- 個々への支援の大切さ、人によって個別のスケジュールを組み立てる事の大切さ、しっかりとアセスメントを取って支援する事が重要であると感じました。時間の関係で見れない動画もありましたが、ぜひ機会があれば拝見したく、また新井先生の研修に参加させて頂きたいと思いました。有難うございました。
- 現場でPECSを使用した利用者様があり、職員から何でも聞くのではなく、その利用者様が自発的にコミュニケーションが取れるような環境であることが解りました。利用者様とコミュニケーションをとる際には、簡潔な文章でかつ具体的に伝える事を意識して支援したいと思いました。
- PECSについては他にもいくつかの意見があり、生活介護の支援員をしており、強度行動障害の利用者様への取り組みに活用している。PECS、構造化について、氷山モデルに基づいたアセスメント、現場での実際の支援の様子を見る事が出来てとても勉強になりました。実践でも取り入れて行きたいです。PECSの活用が進んできているのが解ります

アンケート結果

③ 「構造化」 安倍 陽子 氏

- ASDの人は明確で端的に伝える事で理解しやすい事がわかった。支援側が一人ひとりにあった環境調整と提示方法を深くしていく事が必要であり、その提示方法が一般化できる方法であることが重要である事を学ぶ事が出来た。また構造化について指示の出し方や順序だて、どのように情報を整理したり強調したりするのか具体的な事例を豊富に教えて頂いたのが勉強になった。他の意見の中にも事例や画像の多さ等、具体的な事例が多く、すぐに現場で使えるとの意見があった。
- 子ども中心に療育の視点での講義でしたので、発達障害の方の見え方、考え方、動きなど根底になる特徴が理解しやすかったです。また、構造化も一人ひとりの個性で考える事なので、就労して生活を送っている大人であっても、障害による生きづらさを感じる事項に対して有用と感じました。
- ASDの人の学び方の違いを明確に知る事が出来た。支援の方法もわからない事から、意味があるように整理していく事を、具体的に学べた。写真や講師の先生の経験を具体的に話して頂き、非常に参考になった。また、スケジュールの個別化では、その子の理解にあったものなのか、活動がパターン化していないかを改めて考える機会になった。
- ASDの方の学び方は健常者とは色々異なり、一人ひとりに合わせてスモールステップで教えていく事が大切だと解りました。おしゃべりが上手な方でも、理解が難しいという事を知り、現場でもそういった特性を持つ方がいるので、スケジュールや文字を用いて視覚的に教える事を大事にしていきたいと思いました。利用者様のアセスメントがとても大切であり、一人ひとりに合わせた環境や物の配置が大事である事がわかりました。
- 構造化について、自閉症を持つ方が安心して生活をする上で大切なものであることを学びました。一人ひとりやり方が違い、じっくりとモニタリングし、支援者が個々にあったものを提供する基本姿勢を実施していきたいです。説明の一つ一つに写真など具体的な事例があり、大変勉強になりました。理解はできても現状に導入する事の難しさも書かれてありました→具体的な手法は良く理解できました。今の特別支援学級では、なかなか構造化や予算の関係で難しい所もあります。

アンケート結果

④ 「ASDのコミュニケーション支援」 諏訪 利明氏

- すでに獲得している表出に合わせて表出方法を新たに獲得できることが、適切なコミュニケーションシステムであることを学ぶ事が出来た。コミュニケーションシステムの獲得が、その人の今後の生活を豊かにする一つの方法だという事を改めて学べ、今後の支援の中でどうしたらコミュニケーションシステムを広げられるか注目していきたい。コミュニケーションについて深く考える機会になりました。こちらがすべて意図をくみ取って支援するのではなく、まずは本人の伝えたい事を観察しながら待つことも大切であると学びました。
- ASDに特化した具体例がいくつもあり、ASDの理解を深める事が出来た。他者への意識が低く、見てくれないお子さんが多くいる中で、まず興味を持っていただく事を目指していきたいと感じた。また、自然な環境で練習し環境が変わっても発信できるよう支援していきたいと感じた。応答ではなく発信を意識していきたい。また、毎日一緒にいるとコミュニケーションが定型的になりがちだが丁寧なアプローチの大切さに向き直る事が出来た。
- 理論的に構成されていたので具体的な方法よりも「大切にすべきところ」が解りやすく、明日からすぐにも導入する事が出来そうです。感覚も大事ですが、理論立てて目の前のお子さんにあったコミュニケーションを考えていきたいと思えます。
- たくさんの視点を持って観察し、本人が伝えたい事をどのような手段で伝えたらコミュニケーションが取れるようになるのか、自発的なコミュニケーションを目指して、利用者さんの見極めが出来るようになりたいです。先生の話し方や伝え方が大変解りやすく、あつという間に時間が過ぎ、もっとお聞きしたい研修でした。先生に関する意見は多く、先生のお話をずっと聞いていたい、先生のご経験を交えたお話が大好きです等の意見が多数あった。
- ASDの方が抱えるコミュニケーションの困難さをわかりやすく学ぶ事が出来ました。アセスメント、サンプリングを探る重要性を改めて考えました。これまで自分がASDの方との関りを振り返り、今日聞いたことを実践に繋げようと思いました。
- コミュニケーションが苦手な子に、困った様子が見られると「どうした？」と声をかける事が多かったことに気付きました。コミュニケーションの意味を知って、当事者が使える使いたいと思えるスキルに繋げるように、しっかりとデータを取っていく事が重要だと感じました。他にもこのような意見があり、コミュニケーションのとらえ方を再認識した方が多いようでした。

アンケート結果

⑤ 「発達障害・自閉スペクトラム症の支援～行動障害とABAに基づいた支援～」 井上 雅彦氏

- 講師のABC理論にいつも納得しています。現場で動かすためのスキルを完全に身に着けたいです。弱体化や消去ではダメだということがわかった。事例を示していただいたので、わかりやすかった。不安を避けるためにこだわりがあるという視点を、改めて示していただいた。ABAの詳細な説明で、仕事場でもすぐ取組めそうでわかりやすかったです。
- ABAについて、事例を交えながら非常にわかりやすく興味深くお聞きする事ができました。自分のケースについても応用できそうなことが浮かび、あつという間の時間でした。また、お話しが聞きたいです。
- 親も子どもも、今、起きていることに飲み込まれて、苦しくなりがちです。人と自分の違いを受け入れながら社会適応して行くスキルを獲得していく過程には、起きていることを分析し、対応を考える伴走者の存在がキーになると感じました。
- A君の合理的配慮のところで、年齢別の課題や支援方法が具体的で分かりやすく勉強になった。ABAや応用行動分析を改めて学ぶ必要があるとわかりました。誤学習に対するアプローチが分かりやすかった
- 応用行動分析の実践を学び、その人のこだわりやミスしたときのリカバリー方法など学ぶことができてわかりやすかったです。
- 行動の強化と消去について学びました。消去をするだけでは難しく、言葉で注意しても本人にとってはかまってもらえたという「うれしい体験」になってしまっている場合もあり、なぜそのような行動をするのかよくアセスメントしていこうと思います。
- 自閉症のこどもの支援方法を図でたくさん紹介していただき、大変わかりやすかったです。ありがとうございます。
- 児童発達支援を利用していた児童が就学後に不登校になるケースが身近に起きており、学校と保護者の認識の相違から、話し合いが良好に進まない（より拗れてしまうこともある）と感じていた。学校の環境整備や学校への支援について考えさせられました。
- ひとりの子どもの幼少から成人までの経過を事例として伺うことができ、とても勉強になりました。早い時期から支援と繋がる、環境調整を行うなど親を含めた支援の大切さを感じました。資料も見やすく具体例もわかりやすかった。一人一人の個性の違いや特性を考えながら支援していきたい。焦らず信頼できる支援者を目指していきたい。
- 実例を踏まえつつも、羅列ではなくとても理解しやすかった。過去と現在の比較があることで、未成年時代の教育の重要性が非常にわかりやすく、各支援者の意識変革に役立っていただけたと感じた。

アンケート結果

⑥ 「発達障害の相談支援」 中山 正行

- 相談支援について知ることでき、各年代でどのような相談が一般的なのか端的にまとまっていた。事例が多くあり良かった
- 現場の実践の報告ありがとうございました、自分の活動と対比しながらスキルや調整機能を向上したいと思いました。年代別、事例も交えて頂き分かりやすかった。プランの立て方が参考になった。それぞれのタイプごとの相談事例がわかりやすかった。事例でもう少し具体的なアドバイスなどもうかがいたかったです。
- 検査につながった過程から、アセスメント、支援を長いスパンで知ることができたことが大変有意義でした。今という近い視点で考えると行き詰まることも、生きて行くためにつける力、どのようにしたら生きやすくなるかという長い視点も持つことで成長を支援することができるということを改めて感じられました。
- 年代別の相談内容や課題を理解できた。色々の評価ツールがあることがわかった。幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期の事例で、どのような検査ツールを使って、どのような支援を行なっているのかが分かりやすくて勉強になった。
- 保護者支援はお子さんの支援同様に大事なことだと日々実感していますが、現場では人的、時間的、財源的不足がネックです。
- 相談支援で取り組みやすい内容でした。ライフステージごとの相談で、子どもに関して人によって相談内容が多種多様で、その子に応じた相談対応が行われているのがよくわかりました。年齢によって、どういった困りごとが主訴となるのかわかりやすく説明していただきました。その事例もあり、わかりやすい説明でした。
- 訪問支援をしています。事例のような児童を担当していたので、講義を聞いて、支援の幅が広がりました。また、相手が「相談で何を求めているか」を踏まえた対応が大切であると改めて思いました。
- 幼児から成人までの支援方法がわかりやすかった。それぞれの症例や、検査方法も開示してはいけない中、わかりやすい説明だった。声も聞き取りやすかった。
- 実例をもとにしてよかった。そのため相談支援の細やかな対応が実践でも役に立つと感じた
- 現場の実情を知れてありがたかったのだが、個別例の説明の時間が足りず、深掘してほしいところまで届かなかった。

アンケート結果

⑦ 「アセスメントツールの導入～現場での実践から～」 森 裕幸氏

- いろいろなアセスメントツールの情報を得られたのが良かった。事例があったためより分かりやすかった。改めてアセスメントの基本を考えることができた。アセスメントツールについてまた勉強したいと思います
- 看護師のため現場ではあまり使わない内容だった
- ちょうど、聞いたかったVinelandができてよかったです。あと、最後の先生のアドレスがすぐに消えて残念でした。
- 子どもの困り感に応じた検査、バッテリーを組むことの大切さがよくわかりました。知能と、社会性の乖離は、ウイスクだけでは確かにわからないものです。医療に繋がっても、ウイスクをとって、様子を見ましようということが多く、親が手を焼く姿をよく見ます。数値が高いから、場合によっては単なるわがままと取られることもあるとおもいます。本当の困難がどこにどのような形であるのか、しっかり把握して支援できると良いと思いました。
- アセスメントの大切さ、評価ツールの内容が勉強になった。いろいろなアセスメントを知り、vinelandの重要性、早期発見で環境を整え支援出来ることを知りました。
- アセスメントツールについて学ぶ機会は少ないので、わかりやすく教えて頂きありがとうございます。お話もまとめられていて、聞きやすかったです。テストバッテリーを含め、アセスメントの必要性和効果を説明するときに参考になります。
- PARTS-TR、CARS<Vineland-IIなどの心理検査の概要や検査内容、検査方法、検査対象など実戦を交えてわかりやすく説明していただけて良かったです。アセスメントツールとして考えていければと思います。
- WISC以外のいろいろな検査や尺度を知ることができました。ケースの情報でこういった事柄に触れた際に、何が測れているのか、何が測れていないのかを念頭に置きながら確認していきたいと思えます。
- 行政の現場はWISCと田中ビネーの検査が多く、他の検査は民間で行っているケースが多いです。とても参考になりました。
- いろいろなアセスメント方法を具体的に話していただき参考になりました。Vinland IIをもっと勉強したくなりました。知的に高くても生活面で困り感がある場合があり、これを使うとよくわかりそうです。ありがとうございます。
- 検査の種類や用途について、具体例を示しながら説明していただけたので勉強になりました。また、検査は「医学的診断」ではなく、診断のための補助であり、支援の計画や方針の策定に必要なツールであることを理解しました。
- 説明が早すぎてメモを取る間がなかったが、検査の種類、検査結果など興味のある内容が多くあり、ゆっくりと聞きたかった。
- 説明も進め方もよかったです。ご本人がおっしゃっていたように、内容が公開できないものが多く難しいテーマだったように感じた。幼少児からの早期支援の大切さを改めて感じることができました。検査の種類等、参考になりました。
- 職業柄（心理師）内容がよく理解できた上、再認識や自分の支援の方法の再構築に役に立った。検査の種類等詳しく知る事ができた

アンケート結果

⑧ 「「それぞれの専門性を高める」～作業療法士の視点から～」 酒井 康年氏

- 自分の専攻が心理学だったため、対象者を捉える際に作業という視点から捉えることをしたことがありませんでした。今回の講義を聞いて、作業という視点から見ると、対象者にとってできるようにならないといけないことと、環境調整で対応できることに分けられることを学びました。そのため、自分の中でどこまで対象者ができるのかの判断材料を得ることができました。
- 具体的に理解しやすい内容であった。作業療法士の視点を知ることができたことで連携がしやすくなったと感じる。作業療法士の視点と心理師の視点の違いと共通点を知る事が出来た。
- 知らず知らずのうちに「こうであるべき！」という観念で児童に対応していた気がしました。教室内では【学習の保証】が重要である事は認識しておりました。ただ、それに至るまでの準備も「自分で出来るようになったほうがいいよね？」感から、時に声をかけながら待つ姿勢を取っていましたが、改めるようにしようと思いました。
- 「教室に入りたくない」子がいます。明確な理由がこちらに伝えられずお互いに困ってしまう状況です。こちらは時間をかけて話を聞くほうが良いのか？（すると学習の場から離れてしまう）教室に入りたくない(だけなら)⇒廊下からなら授業に参加できると思いきや(こちらの思い込み)、自由帳を机に出していたりすると、学習自体をしたくないのね？とまた勝手に思ってしまう自分が・・・
- 環境のアセスメントの視点を詳しく説明して下さって勉強になりました。講師の先生も何度も強調しておられましたが、価値判断や良い悪いの評価はいったん置いておいて、どのような特徴があるのか事実としてピックアップしていくのが分析においてとても重要だと感じました。
- 作業療法の視点とその広がりを知ることができました。自分にはない視点が数多くあり、今後の人・作業・環境の捉え方に変化が生じると感じました。作業療法士ならではの分析力と不器用なことを克服するのではなく、不器用な人が笑顔で生きられることへの支援という視点が大変勉強になりました。
- 相談されている問題の本質をこのように理解するのかと大変参考になった。講義の進め方がわかりやすくて良かった。作業療法とは何なのか、理学療法との違いがわかりやすかった。疑問に感じていたことを説明していただいた。これまで作業療法士の考え方や視点をあまり知らなかったが、本日の講義を受講してそれらがとても良く分かり有意義だった。人は作業的な存在であるという考え方がとても面白いと感じた。
- ご講義ありがとうございました。25年目の訪問系作業療法士です。アセスメントがとてもわかりやすく改めて勉強させていただきました。考えることが多くなる経験値で乗り切ろうとしてしまいますが、コツコツ利用者さんの分析を行っていきたくと思いました。
- 「大人がどんな手伝って片づけてしまう」の結論にたどり着く指向のプロセスが理解、納得出来た。満足度の低いモノが支援対象である事、健康と幸福を促進する為、作業に焦点を当てて支援する職種である事 OTのアセスメントの根幹が理解でき、有効な活用につなげたい
- 作業療法士の視点から、子どもの姿を分析することで、子どもに獲得してほしい、子どもが獲得したいと望む力の優先度を観点とした支援の体制がとりやすくなったと感じました。今まではリハビリのイメージであったため、作業療法の認識が変わりました。作業療法士の視点、アセスメント、アプローチ等とても勉強になりました。
- 作業療法に関する内容を聴くことができてよかったです。作業療法士の在り方や視点などは分かりましたが、例えば、事例などから、より具体的に詳細な見立てなどを聴いてみたかったです。職場に作業療法士の方がいらっしゃいますが、相談内容が単調になってしまっていて、本日の学んだ内容から、利用者様の特性・個に合わせて相談を行い、新たな気付きから支援に繋げていきたいと感じました。
- 作業療法士としてのプロの意識があり、専門職としてこのようにアセスメントをして、支援計画を作る過程や各専門職の役割の場に応じた計画をつくる説明は鬼気迫るものがありました。利用者の特性をどう把握するかのアセスメントは勉強になりました。ありがとうございました。

アンケート結果

⑨ 「「それぞれの専門性を高める」～言語聴覚士の視点から～」 志村 みさと

- それぞれの視点がよく解り、連携していく上で役立てることができると感じた。
- 言語聴覚士の視点から捉えたアセスメント方法を初めて学びました。今回の講義を通して、偏食や言語理解を心理学的視点とは全く異なった捉え方ができることを知りました。また、筋肉の動きが偏食や表出に関係することを知りとても興味深かったです。
- とても興味のある分野の話であり、関わっている児童のことが思い起こされた。
- 言葉でコミュニケーションを取るためには、言葉を知っているだけでなく、言葉の組み立てや発声・構音器官の訓練も必要になると理解が深まりました。語彙が増えることも必要ですし、何より言葉が伝わって楽しい、嬉しいと感じられるようななかかわりを大切にしたいと思いました。
- 言語聴覚士の専門性と、自分のしていることが間違っていないと確認できました。多角的な視点から事象を見つめ、具体的な方法もお聞きできました。
- 言語聴覚士さんの視点が大変勉強になりました。言われてみればそうなのですが、食事場面からのアセスメントや支援にはっとしました。事例を出していただけて分かりやすく、イメージしやすく良いと思いました。
- 専門職の視点を学べた。専門性のそれぞれの立ち位置や得意とすること、考え方を学ぶことができた。特にモーラと音節のところはかなり勉強になりました。保育士の資格を持っている中で、傾向があるなどは思っていたが、今回説明をきいてなるほどと思った。自分でももう少し調べていこうと思った。
- 例が分かりやすく、イメージしながら聞けました。STは言語のリハビリを主にやっているというイメージを持っていたが、聴く力や語彙力を広げる支援なども行なっていることを知ることができて良かった。またモーラ（拍）のことはこれまで知らなかったので勉強になった。
- 子どもの困り感を多角的にとらえ支援することの大切さがわかった。保護者に対しても同じ。言語聴覚士として、言葉や嚥下等のスピーチセラピストとしての視点でアセスメントを行っていることがよく分かった。
- 子どもの困った行動がどこから来ているかを丁寧に見る視点がよくわかった。同じケースに対し、それぞれの立場からアセスメントし、アプローチする方法が改めて興味深かったです。これまでの認識の多職種連携とは少し違った意味での多職種連携を学びました。
- 言語聴覚の構音に関して興味深かったです。口腔内からの見立てなど、物理的な対象者（児）の支援が、講義Ⅲさいごのスポットをあてる話とつながり納得しました。
- アセスメントを取るにあたり、細かな配慮点の気づき・ヒント、支援に即繋がる内容でした。ありがとうございました。分かりやすい言葉で丁寧だった。
- 作業療法士、言語聴覚士の専門職として、アセスメントから支援計画までの流れを正確にとらえて実施され、事例を用いた講演内容でした。福祉の専門職としても参考になることが多くありました。ありがとうございました。

アンケート結果

⑩ 「それぞれの専門性を高める」～心理士の視点から～ 結城 綾

- 改めて、心理学的視点からのアセスメント方法を学ぶことができ、とても勉強になりました。こうして専門職の方からアセスメント方法を学ぶことで、前期個別支援計画を立てた際の自分の見立てを振り返ることができました。これから支援計画と前期振り返りを行っていくため、再度、アセスメント方法を見直して役立てたいと思いました。
- 心理士の方とは普段の業務で連携することが多いのですが、改めて心理士の方の専門性を聞くことでどういった視点で対象者と関わっているのか確認することができました。多職種で連携して支援していく際に、それぞれの役割や視点の持ち方で共通している部分や違い（強み）を把握しておくこととスムーズに進めていけると感じました。
- 心理士の専門性と自分の行っていることが間違っていないことが確認できた。
- 心理面の視点から、子だけでなく保護者や関係者も含めた包括的な考え方をお聞きできた。
- K式発達検査を知らず、発達検査はWISCがメインだと思っていました。K式であれば幼児でも楽しみながら受けられることを知ることが出来ました。得意なことを伸ばして成功体験を積み自己肯定感を上げることが重要と分かっていても、子供の苦手なことにより目が向きがちで、診断がつくことで保護者が子供の行動や言動のジャッジに囚われてしまい笑顔が消えてしまうケースを見ました。子供への関わりはもちろんですが保護者の心が置いてきぼりにされないよう支援する必要性もよくわかりました。
- 心理士の方がどのように子供を見ているかよくわかった。具体例があってよかった
- 複数視点の持ち方や考え方がとても共感できたことと、養育者や子どものときに、結城さんの気を付けているところ(特に養育者側は初めてかもしれない、うまくできなかったり、不安だつたりを抱えているかもしれない)に確かに大切だと心底感じた。自分も気を付けているが、養育者側の意見や言葉によってはそのことを言うのであれば、変容すると思っていたので、一度投げ出しませんか？言い方は変ですが、根本的な考え方を見直す機会にもなった
- 子供だけを支援するのではなく、養育者も安心して自分の子供に対して様々な想い（否定的なものを含めて）を素直に感じられるように支援をしていくことがとても大事だということを知ることができた。
- キーパーソンである保護者が不安をもって療育にきていることと肝に銘じます。こどもの背景を知る大切さ。多角的な見方の大切さがわかった。
- 心理士として認知面や言語コミュニケーションなど心理面からのアセスメントを行っているのがよく分かった。強みを活かしながら言葉で表現する楽しさを知らせることができていることがわかった
- 同じケースに対し、それぞれの立場からアセスメントし、アプローチする方法が伺えて興味深かったです。これまでの認識の多職種連携とは少し違った意味での多職種連携を学べました。
- 私は心理士ですが、幼児や児童ではないので、新版など子どもたちの臨床面について確認できました。ことば一つの意味理解の奥深さ、伝わらないもどかしさ➡どう汲み取るを考えるヒントを頂きました。ありがとうございました。
- 作業療法士、言語聴覚士の専門職として、アセスメントから支援計画までの流れを正確にとらえて実施され、事例を用いた講演内容でした。福祉の専門職としても参考になることが多くありました。ありがとうございました。特に言葉の獲得のところは参考になりました。

アンケート結果

⑪ 「大人の発達障害～就労に向けての評価と実際～」 梅永 雄二氏

- 相談支援専門員をしております。担当する利用者の方の中には、障害者枠で一般就労しているけれど、生活面での課題が多く、ご家族やGHの方の支援なしには生活が成り立たないような方がおります。能力とちがはぐさどこからきているのか、支援で改善できるものなのか？など考えておりましたが、本日のご講演で「生活障害者」という概念を知り、理解のきっかけをいただけたように思います。また、アセスメントツール等のご説明もとてもわかりやすく勉強になりました。個人的には、関わる就労移行の支援者の方々の中には、やや根拠論的に支援されている方がいることが気になっておりますため、特に就労や社会参加の機会に関わる専門職がこうした知見に触れる機会を広く周知していただけたら幸いです。素晴らしいご講義、本当にありがとうございました。
- ASDは生活障害者という考え方を初めて知った。ASDの人にはSSTを強要するのではなく、生きていく術を支援していくことが大事。ソフトスキル、ライフスキルが弱いのが特徴であるASDの人には、具体的に目標設定し、休憩時間を分割してマインドフルネスを取り入れ感情コントロールスキルを高める例や、言葉や声に出してのコミュニケーションが苦手な人へは質問項目や回答の選択肢を用意して上司などに伝えられるようにする等、弱さを補完する具体例も豊富で非常に興味深かった。海外でのとりくみや海外文献の紹介もあり、貴重な情報だった。
- 就労に必要な力、自己理解、ぶつかるであろう壁というところがとてもよくわかりました。ソフトとハードの面で、ハード面の強みを発揮できるように採用側の理解が進むと良いと、海外ドラマグッドドクターを思い出しながら話を聞きました。特性が強くても、周りの理解と支えで人は成長しているのだと思います。当事者が自己理解を進めるには、周りの支える力がリンクしていくことが大切なのだと思います。
- アップデートのため毎年受講しております。ライフスキルアセスメントを購入し、数名の幼児、学童児に実施しています。訪問看護でOTとして関わらせてもらう中で、ソフトスキルという概念（昔でいう賢？）は、まだ浸透していないのでピンとくるご家族は少ないですが、核家族で育児経験が少ないご家族にはお伝えしやすい感じはします。土台作りの優先が早急に必要と思っております。
- 就労という具体的な働き手になるためのスキル習得は個人によっては大変だと思います。しかし、社会参加や就労経験から得られるものも生活や人生にもたらすものも大きいと想像しながら講義を聞かせてもらいました。詳細な資料も参考になります。ありがとうございました。
- 現在、大学生の支援部署に勤めております。今回のお話は就労を修学と置き換えても参考になる考察が織り込まれていたので大変勉強になりました。修学上でもハードスキルやソフトスキルは実際にあると思いますし、その困難さを可視化できるかで学生の成長を促すきっかけになればと思いました。また、3年生4年生ともなると目の前に就労という新しい分岐点が訪れるのは事実ですので、今回のテーマを参考に学生とお話できたらと考えています。

アンケート結果

⑫ 「発達障害のある大学生～学生の自立と家族の支援～」 五味 洋一氏

- 寮暮らしの大学3年の息子が留年し、今学期も出席できなくなっているようです。具体的な支援方法がわかり、大学生になってからの困難さの理由の一部がわかりました。特性を自分で認めて、合理的配慮を申請し、依存先を増やして社会に出られる1歩を進めることを祈っています。
- 現在の大学の状況等、なかなか知る機会のない内容で大変勉強になりました。特に、大学生や社会人になってから行き詰まりを感じる人たちが増える背景がよくわかり、それを未然に防いだり、予防できたりする環境調整していく関わりの大切さがわかりました。また、視覚や聴力障害などは高校まで特別支援が受けやすい環境で過ごしてこられたことで、大学入学後の環境のギャップから、能力はあっても効力感が下がってしまうというお話に、特別支援の盲点があるように感じました。また、幼少期から主体性を尊重する関わりを大切にしていくなり、必要性もわかりました。相談支援専門員として、未就学児から成人まで、発達障害のある方の支援に携わっております。幼児期には療育重視で、保護者の声によることが多いのですが、本人中心の支援が成立するよう、改めて関わりを見直したいと感じました。ありがとうございます。
- 最近の大学での障害学生の受け入れ態勢や学習環境の実際、学生の状況などについて聞くことができた。障害学生が大学生活を送るには、小中高時代とは異なり、自身が意思決定の主体となって合理的配慮を求めていかなくてはならない。困り感の言語化に慣れていない学生へのサポートをはじめ、教職員側への支援もしていく障害学生サポートセンターの取り組みを聞き、学生の困り感などへ思いを馳せることができ、大変有意義だった。
- 相談室が大きな役割を担っていることがわかりました。入試から始まる合理的配慮、支援の継続や自立へ向けて本人主体で進みきつかけを掴むためにも、悩みを抱え込まず相談できること、言語化できることが大切だと改めて感じました。
- 自らシラバスを選択する力がない場合などは自分の学生時代に当てはまるのを思い出しました。今は情報過多をパッチカルで整理するなど目的を忘れない様にしており、わからず苦しんでいる学生さんが自身の特性に合わせた収集方法を編み出せる環境、知識のアップデートは継続したいと思います。ありがとうございます。
- 具体的なお話を伺い、思っていた以上に大学で様々な配慮がなされていることを知り、勉強になりました。また支援が必要な学生が思っていたより多いことを知りました。中学・高校・受験と大学の勉強の違いは興味深かったです。「社会移行支援」という言葉は初めてだったのですが、とても大事で必要なことと思いました。
- 発達障害をもつ大学生にどんな傾向があるのか、必要な支援について学べたため、とくに自己決定支援や自分の気持ちを家族や支援者が代弁するのではなく当事者が言語化できるよう支援することが重要であるというのが印象的であった。
- 各大学によつての当事者支援は発展の途中な様子うかがえました。それでも個人とかわり、大学ならではの学習環境で合理的配慮を点検する姿勢や寄り添いが感じられ、振り返れば、昭和時代の大学環境と比較できないほどステップを踏み進んでいると思いました。最後に東大先端研について触れられていたが、まだ限定的な当事者支援に思いますが、それでも確実に展開していることを再確認させてもらいました。ありがとうございます。
- 一人でやるのがえらい、人に聞いてできるのは一人前ではないという教育感覚が、学生たちの相談ハードルを上げているという問題意識が伝わってきました。単に苦手を免除するのではなく、どのような方法であれば参加できるのかを考えることは、私の普段の仕事でも意識していこうと思いました。
- 先生のお話にもありました通り、昨今の大学生の相談ではメンタル面での不調が多く見られます。発達による修学の困難さを表現できる学生の方が少なく、むしろ、落ち込んでしまった背景を聞いていくうちに、おそらくは特性の凹凸が原因の一つではないかと思うケースが見られます。授業についていけない、先生の話が理解できないという知的面での困難さも、具体的に説明できない学生も少なくありません。今回のお話を聞き支援者側のサポートの重要性も再認識したところです。発達に限らず、色々な学生が進学してくる時代ですので、組織全体で大学教育の在り方や意義を、見直す必要があると思いました。

アンケート結果

⑬ 「成人期ダイケアにおける発達障害専門プログラム」 横井 英樹氏

- ASDの他に課題別のダイケアがあることを知りませんでした。
- 現若者サポートステーション（居場所併設）で相談員をしています。ASD/ADHD境界知能？を思わせる利用者の方に少なからずお会いします。本人が何かしら生きづらさを感じつつも向き合ったり、診察につながるまで時間がかかったり、本人が気づき医療につながるろうとしても家族が反対し、ただ就労だけを目的とするなど、様々な課題を抱えています。
- 梅永先生の生活障害者、という概念にも通じる部分が、より具体的に感じられる内容で興味深かったです。複数の専門プログラムがそれぞれ、目的別に対象者も選ばれて提供されている点も素晴らしいと感じました。ダイケアと聞くと、居場所として通う所というイメージがあったのですが、こちらのプログラムにはしっかりしたカリキュラムが組まれている点が素晴らしいと、とても参考になりました。発達障害の課題や特徴のご説明も大変わかりやすかったです。例えば、社会的カモフラージュ、スタッフ自身の自己理解の必要性、家族支援の意義など、取り上げて説明していただいたことで、自らの支援の中で何となくあると思っていたことも教えていただけたように感じ、今後の支援にも活かしていきたいと思いました。担当する利用者さんの中に、知的ということでも過ごされてきた30代の方がいるのですが、今の時代ならば発達障害と診断されているのではないかと思う特徴がある方で、知的障害者として受けている支援とのミスマッチに悩まれています。以前、本人のお母さまから再受診させた方がいいだろうかと、ご相談されたことがあり、改めて受診することで、適切な支援につながるように応援したいと思いました。HP等も拝読させていただきたいと存じます。貴重なお話と取り組みのご紹介をありがとうございました。
- 病院ダイケアの実際的な取り組みを聞くことができ、貴重なチャンスとなった。ASDという障害特性に対して、複数の段階的なプログラムを用意され、具体的な日常的な取組を経て就労までむすびつけるための機会を提供していただける。それぞれ内容が具体的に大変勉強になった。
- 発達障害に限らず社会生活を行う上ではSOSの出し方が重要だと実感しています。特性があり家族のサポートが強いと何が出来て何が難しいのか分からず、自立が遠ざかってしまうことがわかりました。生活力のチェックと体験や同じ特性を持つ人との交流は大きな力になると思います。高齢者や子供のダイケアしか知らなかったので相談や支援の場があることを知れたことは大変良かったです。

アンケート結果

⑬ 「成人期デイケアにおける発達障害専門プログラム」 横井 英樹氏

- 診断なしながら同年代から遠ざかる重めのASDの子供の支援していますが、こういう場につながり自分に似た感覚の人に出会えるといいと思いながら話を聞きました。本人は、まだどうしたい、どうしたくないも決められず、たくさんの人の中で全くわからない授業を受け、困りながらその場にい続けることしかできていません。まず何が好きで何が苦手で、こうしてくれたら助かるという意味の表現ができるようになるいいと思います。まだ小学校高学年ですが、社会に出るまでにどれだけの困難があるか。まずは保護者の受容と適切な学びの場につながることで、学生のうちに経験できることを、自分の意思も踏まえてしっかりと経験できるようになるといいなと思いながら研修を受けました。
- ご講義ありがとうございました。毎年受講させていただいております。ADHDとASD、DCDなど重複しているお子さんが増えている(診断がついている)中で、大人、未成年者のデイケアがあること、つまずきや困りごとに気付ける環境、機会の大切さを実感します。ゆる自炊Bookは自分が訪問看護で行っているASDの料理好きのお子さんにもいいなと思いました。こうしたプログラムが働く人が元気になる予防の観点から診療報酬として評価されると良いのですが…。新しい元気サイクルプログラムが継続できる社会であって欲しいと思いました。
- 発達障害というとすぐに児童生徒を想像してしまいます。しかし、ご本人は成長し、青年、中年、壮年と社会生活者として歩んでいくと改めて実感しました。デイケアの活動内容や、類似した特性など支援の模索や工夫を教えてもらいましたが、実際には個別な要素が多く(年齢に限らないと思いますが)、地道な日常支援の継続が大切だと思いました。8050問題も大きな課題ですが、特性を個性と捉え、ユニークさなど理解が深まればいいと感じました。ありがとうございました。
- このテーマは、保護者なども視聴出来たらと聞いていました。これだけのサポートが存在する事を知るだけでも、家族にとっては大事な情報になると感じたからです。最近は簡単に診断を出す病院やクリニックが多く、学生支援の立場からも「初診の日に診断されたの？」と驚くような事が普通にあります。医療現場も患者が増えているので大変な苦労が多いと思いますが、人の人生を左右しかねない事でもあるので、可能な限り丁寧に診て欲しいと、鳥山病院のような機関がもっと増えたらと思いました。
- 家族支援の重要性、本人の自立へのサポートなど分かりやすい説明でした。自信の同じ特性の人と触れ合うことで、人に興味を持ち、ディスカッションを通じ人に興味を持てるよう考えられたプログラムを多くの人に受けてもらえるようになればいいなと感じました。また、診断が簡単に受けられる子どもや、人が一人でも多くなるよう、育成、マンパワーに期待しています。

※この回は、他に多数の意見があり、大人の発達障害への関心が高い事が伺われる。

令和7年度 医療機関等向け講習会 実施報告

第2回東京都発達障害者支援地域協議会
令和8年2月16日(月)

社会福祉法人 正夢の会
理事長 山本あおひ

研修概要

目的：発達障害児（者）への対応に係る講習会を実施することにより、発達障害に対応可能な医療機関の確保を図り、発達障害児（者）への支援を担う人材を育成する。

対象：医療機関・保健センター等の医療従事者等

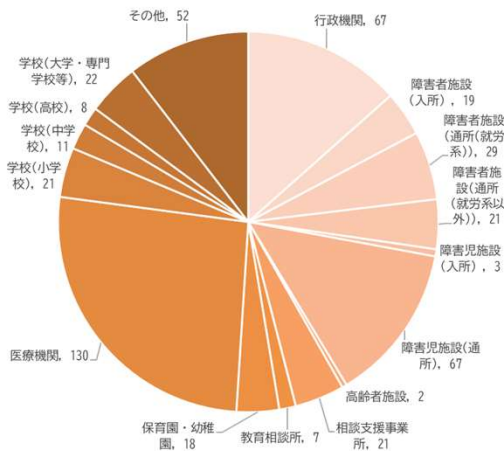
内容

	日程	応募/参加	講義内容	講師	所属
第1回	9月7日 (日)	95名中 70名 74.74%	① 発達障害と地域連携	本田 秀夫氏	信州大学 医学部 子どものこころの発達医学教室 教授
			② 発達障害と強度行動障害	會田 千重氏	独立行政法人 国立病院機構 肥前精神医療センター 統括診療部長
第2回	9月21日 (日)	93名中 65名 69.89%	① 発達障害とアイデンティティ	近藤 直司氏	大正大学 名誉教授
			② 発達障害と心理検査	稲田 尚子氏	大正大学 臨床心理学部 臨床心理学科准教授
第3回	10月19日 (日)	66名中 42名 63.64%	① 成人発達障害と医療	柏 淳氏	ハートクリニック横浜 院長
			② 発達障害と行政	菊地 章人	東京都福祉局 障害者医療担当部長
第4回	11月16日 (日)	86名中 64名 74.42%	① 発達障害と生物学的背景	宇野 洋太氏	よこはま発達クリニック 副院長
			② 発達障害と教育	市川 宏伸氏	日本発達障害ネットワーク 理事長 他
第5回	12月14日 (日)	75名中 48名 64.00%	① 発達障害と気分障害	梶屋 二郎氏	東京医科大学 メンタルヘルス科 主任教授
			② 発達障害と司法	安藤 久美子氏	東京科学大学 保健管理センター 准教授
第6回	1月18日 (日)	75名中 49名 65.33%	① 発達障害と学習障害	藤堂 栄子氏	NPO法人EDGE 会長
			② 発達障害と当事者	尾崎 ミオ氏	東京都自閉協会 副理事長 他

参加者の概況(所属)

申込者数：490人 参加者数：339人 参加率：69.18%
(令和7年度実績：全6回分)

【所属別】

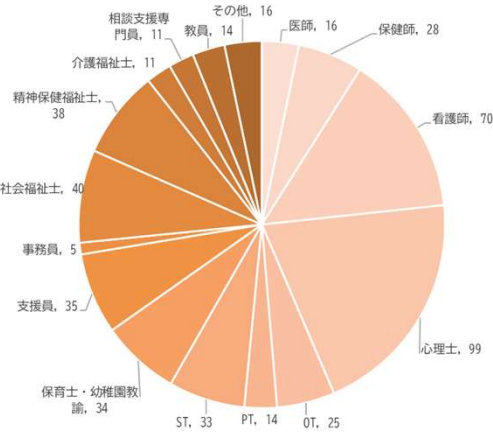


所属別	人数	割合
行政機関	67	13.45%
障害者施設(入所)	19	3.82%
障害者施設(通所(就労系))	29	5.82%
障害者施設(通所(就労系以外))	21	4.22%
障害者施設(入所)	3	0.60%
障害者施設(通所)	67	13.45%
高年齢施設	2	0.40%
相談支援事業所	21	4.22%
教育相談所	7	1.41%
保育園・幼稚園	18	3.61%
医療機関	130	26.10%
学校(小学校)	21	4.22%
学校(中学校)	11	2.21%
学校(高校)	8	1.61%
学校(大学・専門学校等)	22	4.42%
その他	52	10.44%
合計	498	100.00%

参加者の概況(職種)

申込者数：490人 参加者数：339人 参加率：69.18%
(令和7年度実績：全6回分)

【 職種別 】

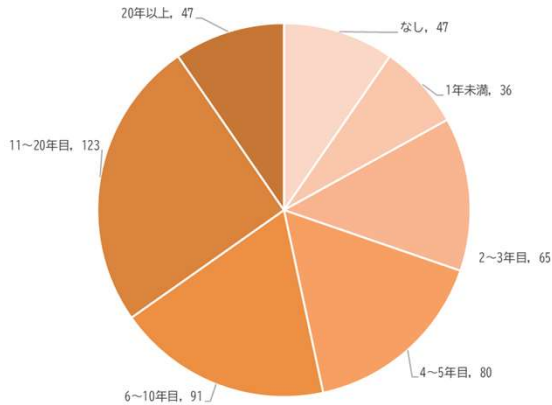


職種別	人数	割合
医師	16	3.27%
保健師	28	5.73%
看護師	70	14.31%
心理士	99	20.25%
OT	25	5.11%
PT	14	2.86%
ST	33	6.75%
保育士・幼稚園教諭	34	6.95%
支援員	35	7.16%
事務員	5	1.02%
社会福祉士	40	8.18%
精神保健福祉士	38	7.77%
介護福祉士	11	2.25%
相談支援専門員	11	2.25%
教員	14	2.86%
その他	16	3.27%
合計	489	100.00%

参加者の概況(経験年数)

申込者数：490人 参加者数：339人 参加率：69.18%
(令和7年度実績：全6回分)

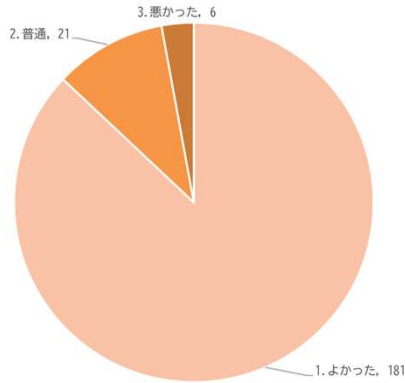
【 経験年数別 】



経験年数別	人数	割合
なし	47	9.61%
1年未満	36	7.36%
2~3年目	65	13.29%
4~5年目	80	16.36%
6~10年目	91	18.61%
11~20年目	123	25.15%
20年以上	47	9.61%
合計	489	100.00%

参加者の概況(オンラインについて)

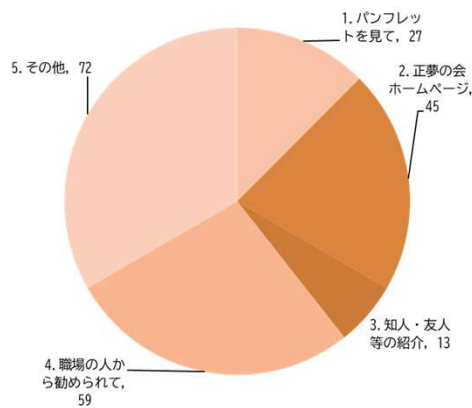
申込者数：490人 参加者数：339人 参加率：69.18%
(令和7年度実績：全6回分)



評価	人数	割合
良かった	181	87.02%
普通	21	10.10%
悪かった	6	2.88%
合計	208	100.00%

参加者の概況(研修を知ったきっかけ)

申込者数：490人 参加者数：339人 参加率：69.18%
(令和7年度実績：全6回分)



経路	人数	割合
パンフレットを見て	27	12.50%
正夢の会ホームページ	45	20.83%
知人・友人等の紹介	13	6.02%
職場の人から勧められて	59	27.31%
その他	72	33.33%
合計	216	100.00%

アンケート結果

① 「発達障害と地域連携」 本田 秀夫氏

- 看護師として療育施設で働きながら、福祉と医療を結ぶ診断の場で勤務しています。知的障害がない発達障害向けの特別支援教室への手薄感には本当に現場でも感じています。特に親御さんの受け入れられなさが、境界域の子を通常級に入れたという思いに拍車をかけて、子どもに無理をさせてしまい、就学後に不登校になる子が続出して心苦しく思っています。同じ地域でも、健診の有所見率のばらつきには驚きました。Q-SACCSを使って自己点検、テンプレートはとても参考になります。それを使って、周辺の社会資源との繋がりの大切さを再確認提供していきたいです。自治体が地域周辺のために道筋が示せるガイドを作っていく、標準化していく必要がある。
- 発達障害を診断された年齢が高くなるほど、診断が遅かったという親御さんが多かったのが興味深かったです。又、知的に高い子が通常学級に所属して、不登校になる割合が高いとのことで、インクルーシブの中での多様性受け入れや配慮が、法整備と現場の工夫の両方から必要なのだとわかりました。法の整備というところでは、16才の子が中学退学になると、ほぼ、児童発達支援しか行き場がないというお話も印象的でした。法の整備と医師不足も含めて、発達障害の子供達が安心して生活する環境はまだまだ整っていないと感じました。
- 研究結果も踏まえながら現状を分かりやすく把握でき、その上で、各種ツール等もご紹介していただきながら具体的な対応について考える事が出来ました。制度として整ってきていても、地域差も含めて現場としてどう対応していくか、見通しをもって早期から家庭や周囲の理解と連携強化をどう進めていくか、課題は多いがやれる事はまだあると感じられました。
- 1歳半健診の重要性を再認識しました。発達障害の診断が早くついたことへの不満が0件と言う結果も興味深かったです。晩婚化と核家族化が多い現代で、グレーな親に特性のある子と言うケースに出会う事もあり、早期診断と継続支援の必要性を感じていたため、抗議で様々なデータや地域での取り組みを知り知識を深める事が出来ました。今後に生かしたいと思います。
- 発達障害を診断された年齢が高くなるほど、診断が遅かったという親御さんが多かったのが興味深かったです。また、知的に高い子が通常学級に所属して、不登校になる割合が高いとの事で、インクルーシブの中での多様性受け入れや配慮が、法整備と現場の工夫の両方から必要なのだとわかりました。法の整備と言う所では、16才の子が中学退学になると、ほぼ児童発達支援しか行き場がないというお話も印象的でした。法の整備と医師不足も含めて、発達障害の子ども達が安心して生活する環境はまだまだ整っていないと感じました。
- ライフステージにあった地域支援の必要性を感じた。また、長期的に支援が途切れないようにする事の重要性も学べた。各分野での現状と課題を浮かび上がらせて、どうすべきかが明確になった。様々な支援機関がある事や、疫学的なデータが示されており解り易かった等、多岐にわたった講義に学びが深かったとの意見が多数あった。

アンケート結果

② 「発達障害と強度行動障害」 會田 千重氏

- 強度行動障害は、本人はもとより周囲がとて辛くなるため、肯定的で一貫した対応が大切だと、頭ではわかっていても、目の前で生じてしまうとなかなか難しい面があります。悪化させない対応や予防的対応をどのようにして行けばよいのか、大切な視点を学ぶ事が出来ました。本人が状態を上手く伝える事が出来ない分、援助者側が思い込みや勘違いによる間違っ介入をするとさらに悪循環になる事を気をつけ、誤学習への気づきや未学習を減らす対応、トラウマインフォームドケアの視点などにも留意したいと思います。
- 強度行動障害と言う言葉を初めて知った、強度行動障害についてほとんど知らなかったのが概論から具体的な支援について知る事が出来た。強度行動障害に関しての講義を聴くチャンスがなかなかない等の意見がいくつか見られ、また現状としては強度行動障害の実態が知られていないのが何われ、この講義の必要性を強く感じた。また、私の所属する事業所では強度行動障害は対応していないという意見もあった。
- 講義の中で応用行動分析についても詳しく触れられており、行動分析的なアプローチについて再確認できた。行動分析を丁寧に説明して頂き良かった。発達障害者の応用行動分析やTEACCHプログラムの支援についても学ぶ事が出来て良かった。強度行動障害の大変さばかりに目が向きがちだが、その背後にある本人の思い、行動の分析が重要である事を改めて認識できた等、応用行動分析について学びが深まった事や、講義後半で丁寧に説明されていたストラテジーシートについても再確認が出来た等の意見があった。また、行動分析を間近に感じる事が出来た。強度行動障害のみならず、色々なカウンセリングにも使えそうだった。強度行動障害の機能と分析のお話は、普段の臨床にも使えると思いましたなど、支援への講義の応用が期待できた。
- 強度行動障害について学びがあったので良い機会を得る事が出来ました。未就学児の支援をしていますが、クライシスプランシートやストラテジーシートなど、今後活用したいと思いました。肯定的で一貫した対応を心がけたいと思います。
- 看護師からの意見も頂いています。強度行動障害を起こさないための環境の大切さを学びました。日々の看護や観察の大切さと医療連携についても学びました。看護師への心理作用の5段階は自分の置かれた立場を客観的に見る事が出来ました。(強度行動障害が及ぼす看護師への心理的作用) 他院での長期の内服治療を受け、副作用に悩んでいる強度行動障害の患者さんとご家族がいます。まさに環境のミスマッチと不適切な支援による誤学習をしたようで、症状を抑えるための薬物治療が優先されていました。子ども園での看護師配置で中々肩身の狭い思いをしています。知識を増やして行くきっかけになりました。

アンケート結果

③ 「発達障害とアイデンティティ」 近藤 直司氏

- ひきこもりの子に対する、軽度知的障害や境界域への気づきはとても大切な課題だと感じています。積極奇異タイプの方は、自分から積極的に他者に関わろうとしますが、その関わり方が一方的になりがちですし、そのような子に愛着の問題が絡むことでまた複雑な配慮が必要だと思います。悪気はなくても、具体的には以下のような行動が見られるため、周囲から「空気が読めない」「しつこい」「変わっている」といった印象を持たれ、人間関係のトラブルにつながる場合があります。自分を掴むこと=アイデンティティ形成ということがすごくわかりやすかった。エリクソンのアイデンティティ、拡散症候群というのは、看護学校の時に習ったことがあったが、具体的な意味まで理解していなかったことが本講義の近藤先生の内容である程度の理解がアイデンティティ選択のゲームを楽しむ側の活力が失われている、いつになっても自己開始する選択の状態に陥っている人と親密になると飲み込まれてきた、引き込まれるか呑みこまれるかで絶望感を感じるところもとても共感できました。アイデンティティ拡散で引きこもりにならないような関わりができるようにしたい。ひきこもりケースの中には自閉スペクトラム症特性を持つ方が結構いることや心が育つ環境整備の大切さを学ぶことができ、今後の仕事につなげていきたいと思っています。
- 私は公立中学のSCをしています、近藤先生が言われていた高校以降による生徒たちの変化について思いを巡らし受講しました。中学生は他者目線が過大になり、あるいは前思春期のような発達を見られる場合もあり、個々人の多様性をいつも感じています。公立の学校現場の風土と、心理的支援を相互に見ながら、地域の医療機関などもつながり、学校支援を継続していきたいと思っています。また、エリクソン自身も悩みながらも器用なエリクソン。大好きなエリクソンのお話も嬉しかったです。ご体調がわるいなかでも教授いただき、ありがとうございます。
- 以下様々な意見がありました。
 - ・今迄に触れた事が無かった内容であり、且つわかりやすかった。
 - ・自身の園でも発達障害の園児がいるので、対応や保育士への研修等に参考になりました。
 - ・中学生の不登校支援に携わっていて、アイデンティティと言う考え方に気付かされた。支援者の関りが狭まらない事も教えて頂き大変参考になりました。
 - ・発達の特性を見る上で、その人の育った環境なども視野に入れる必要があるというのがとても腑に落ちました。
 - ・発達障害単純化ではなく、もっと広い視点でアセスメントするという観念に共感しました。また子どもの実例を挙げながらだったので、非常に具体的に明日から支援に使えるそうです。
 - ・医療従事者が発達障害に過集中状態になっていないかという警鐘を頂きました。改めて原点に立ち返り、臨床に望まなければと気を引き締めました。

アンケート結果

④ 「発達障害と心理検査」 稲田 尚子氏

- 近医の小児科さんでは、健康乳児検診の時にM-CHATを行い、そのスクリーニングでふるいにかけ療育センターに来てk式を行い、療育が必要な判断を行っています。インフォーマルアセスメントの長所と短所を理解して主観的になりやすい点に注意したいと思っています。程度の判断は本当に環境によるものだと思っています。M-CHATの説明では、電話説明のフローチャートはとても解り易かったです。目的に応じたアセスメントツールの選択の大切さもわかりました。保護者面接の所も具体的な項目があり解り易かったです。次回は構造化についてもご教示頂けることを期待しています。チャットで質問を取り入れながらの研修は一方的ではないため、すごく良かったです。
- M-CHATやVineland-II、PARS-TE-RやCARSのお話から、早期の把握や適応などを考える時間になりました。検査結果も含めて、保護者や教師の情報、日常の観察と合わせて包括的に、それと、プロセスに創造を働かせる必要も大切である事を再確認しました。そもそも何の為の検査であるかを心に留め、今後も支援に生かしていきたいと思っています。
- 療育施設の保育士をしています。色々な専門職との連携が必要だと認識していますが、専門職の内容理解が追いついていません。心理職の理解が少し進んだように思えます。このように心理職ではない方からの意見には、難しかった理解が進まなかった等の意見もありましたが、福祉職のため、心理検査についてあまり知識がなかったため、大変勉強になりました。知らない検査も多くあったので、調べてみようと思いました等の、前向きな意見もありました。
- 以下、様々な意見がありました。
 - ・心理検査の種類と内容が理解できた。
 - ・自身の園児への対応に参考にさせて頂きたいと思いました。講義の中で出て来た研修の詳細を知りたいです。
 - ・ASDの心理検査内容についてもう少し詳しい話を聞きたかった。
 - ・様々な面から分析し、必要な支援を導き出す必要性を具体例で学べた。
 - ・事例から実際の検査がどのように支援に繋がっていくのかよく理解できた。
 - ・どちらかと言うと心理職向けだったので、多職種ですぐに現場で使える観点は少なかった。

アンケート結果

⑤ 「成人発達障害と医療」 柏 淳氏

- 発達障害の特性から来る大人の問題や、ADHDやASDのことが分かりやすく、具体的にイメージしやすく、直ぐに役立つ内容で、大変理解しやすかったです。また、当事者の目線で理解する事の重要性と、見方の説明もあり、とても勉強になりました。
- 障害児に視点を置いた講習会が多いが、成人発達障害についての講義は具体的でありわかりやすかったです。また、成人の発達障害の特徴や治療についてのお話しとてもわかりやすかったです。
- 成年期に二次障害が出てしまうとのことが、気になりました。特性により幼少期のアタッチメントが出来にくい。では、どうしたら良いのか難しい問題だと思いました。
- まず、誰が診察しているのか〜について、「どんどん紹介されてくる」等、臨床現場でのお話が興味深かったです（不登校支援の現場にいた際も、児童精神科の予約争奪戦もございましたが、専門家不足の現状を実感）語り口等パーソナリティー含め、面白く聴かせていただきました。ありがとうございました（Twitter拝見いたします！）
- 語りがとても聞き取りやすく、また認知特性の図と解説はかなり明快でした。企業の保健師・産業医（非精神科医）・人事部が、これらを理解できていれば、適応障害として受診する方を減らすことができそうに思いました。追って先生の著書を拝読いたします。
- 発達障害のある方とかかわる時、その方がどのような世界で物事を見ているのか？という視点が大変勉強になりました。なぜ、他者視点がないのか？というのも脳の機能として理由があること。その方とかかわる際に、頭にいれてかかわっていきたいです。
- 成人発達障害に対する内容であったが、幼少からや当事者視点なども想像でき、とても参考になりました。発達障害は障がいというより個性のようなもので、一定教身近にいる生活者であり、むしろその個性をより知りたいと思いました。先生の声やテンポも聴き取りやすく有意義な講義でした。

アンケート結果

⑥ 「発達障害と行政」 菊地 章人氏

- 国や発達障害に対する東京都の施策や枠組み、近況などわかりやすい説明していただき良かったです。制度の整理につながりました。やってみて効果があった事業や好事例を伺いたいです。また、法律とそこから派生する行政のシステムや体系がわかりました。
- 発達障害児、者にとっては支援法が手厚くなり子どもから大人まで切れ目のない支援が名目上あるが、支援者の数が現状に合っていないと思いました。
- 断片的に、個別に接していた制度に関する情報が、網羅されていたことが、まずありがたかったです。知らなかった施策については詳細が気になる点もありましたが（ペアレントメンターのマッチング適性の判定方法など）、福祉局の方針の全体像を把握できたことに価値がありました。
- サービスの内容を確認するためにも基本に還ることができました。

アンケート結果

⑦ 「発達障害と生物学的背景」 宇野 洋太氏

- 親の躰の問題ではないということ、遺伝的、環境的背景を理解しながら関わっていく大切さを学びました。
- ASDの歴史的な背景から最新の知見まで網羅され、1時間半ではもったいないほどの内容でした。研究者、臨床家としての宇野先生のお話は大変興味深かったです。穏やかな語り口で、頭にすーっと入りました。発達障害の療育、治療、教育をなぜするのかを考える根拠となる大切な内容を学ぶことができました。
- 発達障害の歴史や身体とところの関係など詳しく学べてとても有意義でした。実践でも活かして行きたいと思います、本日は誠にありがとうございました。
- 発達障害の歴史について、自分で調べる機会がなかったので、勉強になりました。統計のデータを使って読み込む力もつけていきたいと思いました。臨床では使いにくい
- 発達障がいについて、自分の業務を想像しながら復習できました。改めてスライドも見直したいと思います。するべきではない介入(NICEガイドライン)の背景となるお話をきけてよかった
- 分かりやすく、聞き取りもしやすかったです。講義として臨床で患者から質問される際に使える知識がふんだんにあった。ASDの子の親もASDの傾向があることが多いので理論的に話をすることが求められることも多く参考にしたい。また有用であるだけではなく、ただ本を読むだけではわからない余談のような話もとても面白かった。
- 発達障害の要因とされることについての議論や歴史的な経緯、また脳機能の障害について、わかりやすく、広がりのあるご講義で興味深く学ぶことができました。
- クライアントから、発達障害の原因について尋ねられることがあり、エビデンスに基づいた回答ができるようになったと考えられた。自閉症発症の原因について最新の研究成果を知ることが出来た。情報に振り回されがちな昨今ですが、正しく知識を整理させていただいた。
- 福祉系研修において、発達障害の分野の研修はとて多くなりました。しかし聴講を重ねてきましたがASDについてはどうしてもボリューム感が弱く、残念に感じることも多くありました。歴史から始まり、遺伝的内容と進むにつれ、引き込まれ、どれも興味深く、あつという間でした。同様の研修がありましたら、復習の意味もこめ、再受講を考えてもよい内容に思いました。
- 歴史と最近の話題を含めてとてもわかりやすく説明して頂けました。感覚刺激への応答性以降のスライド内容についても例を交えて先生の言葉でもっとお話を聞いてみたいくなりました。
- 発達障害の歴史や海外での知見を分かりやすく講義いただき大変勉強になりました。
- 発達障害の原因、特に生物学的な要因について参考になった。発達障害と薬の関連の話が興味深かったです。
- 歴史、研究や研究者のエピソード、またその研究結果が覆され、現在の米国大統領の発言ともからめながら、とてもわかりやすく興味深いお話しでした。新たな視点での発見を知ることができました。深みの勉強をしたいと思います。
- 発語、言語の問題に対してするべきではない介入の2点について知ることができ、良かったです。

アンケート結果

⑧ 「発達障害と教育」 市川 宏伸氏

※当日、市川氏の体調不良により急遽中止となった。その後、講義を録画して、申込者限定・期間限定で、動画配信を行った

- 大きく俯瞰して不登校を捉えることができた。
- 現代では不登校の発生原因が発達障害から由来していることが多いということがよくわかったため。
- 声がやや聴きとりにくい部分があったが、有意義な講義だった。
- 市川先生の歴史に触れた気がしました
- 不登校の原因は発達障害に多くあるが、個別対応で変わってくるとが分かりました。また、大人になると引きこもりになる可能性もあるので、その子のできる部分を見つけていくことが大切だと感じました。
- 体調不良というやむをえない事情にも関わらず、収録、配信して下さってありがとうございました。
- 市川先生の臨床をのぞかせていただき、発見や学びがたくさんありました！
- 不登校と発達障害がどのように関連しているのか、もう少し詳しく伺いたかった。学校の対応の重要であること、実情など、よくわかりました。補講を設定していただきありがとうございました。
- 不登校と発達障害が関係することが多いことがわかりました。
- 「成長するために不登校になった」という文言が印象に残りました。

アンケート結果

⑨ 「発達障害と気分障害」 梶屋 二郎氏

- 気分障害の説明から、発達障害を持つ人達が併存しやすい状態にあることなどについて、丁寧に説明いただけ、理解が深まりました。発達障害や気分障害などの障害によって2次的に症状が悪化することも数多くあるので、子どもの時から環境を整備することの重要性を感じました。
- 大変興味深いお話ありがとうございました。発達障害における気分障害の背景にACEsがあると考えられることがよくわかり、安心・安全な環境を作る必要性を改めて感じました。小児期のころのトラウマ体験が、大人になってからうつ病などになることなどを知り、より小児期の支援は大切だと感じました。
- 発達障害当事者がどのような経験をしながら育っていくのか、それらの経験が精神にどのような影響をきたすのかがとても分かりやすく大変学びになりました。
- 勤務している病棟でも気分障害を併発している患者さまは多くおり、理解を深めることができよかつたと感じる気分障害を説明する場合、テキスト的に伝えることができても、複合的な要素が絡んでいることから、どの点を中心に伝え共有することが適切なのかなど、日々考えています。本講義で、基礎や広い視野からの見え方が参考になりました。ありがとうございました。
- ACEと発達障害、気分障害との関連についてもお話しいただき、大変参考になりました。PCEs、BCEsについて知れたのもよかつたです。
- 発達障害と精神疾患の繋がり、また逆境がどのような影響を与えているかを深く知ることができました。今後の支援に役立てていきたいと思っています。
- 発達障害とPTSDと小学生でも診断されることがあり、鑑別や関連を学びたかつたので、とてもよかつたです。気分障害、トラウマ、逆境体験との関連を含めた広い角度から、そして大事なポイントも細かく教えて頂きました。ある程度知っていたと思っていた事柄を深く知る必要性を感じましたし、情報がアップデートされました。デンがよかつ中身の濃いあつという間の時間でした。またご講義頂きたいです。
- 女性もなりやすいことを考えると、時代背景や特性によりこれからもっと増える可能性があると感じました。結婚、出産、育児などイベントがある中で自己選択ができるよう特性に見合う情報収集ができるようなSNS発信などがあると良いなと思いました。
- インターネット依存も過剰になっていないか、子どももそうですが大人で逃避に使う人もいることから、これから情報とどう向き合うかも課題であり自身の特性を知ることが大切だと個人的には思いました。
- 二次障害としての気分障害だけでなく、様々な要因があることが分かりました。大人の発達障害の方と接することが多いため、虐待体験といったストレス度の高い環境にあつたのか？等成育歴の方にも注視していきたいと思いました。
- 気分障害の分類と症状が良く理解でき、発達障害と心の関係が違つた切り口から理解が進みました。適切な支援が発達障害の方が二次障害を発症することへの予防になることを知つた。
- 小児期逆境体験がその後の人生に多大な影響があることを聞き、子どもの頃の環境が大事だということを知りました。障害の有無に関わらず誰でも体験する可能性があると思つた。
- 気分障害の知識の整理になるとともに、発達障害との鑑別の重要性を理解することができたため、うつなどの気分障害は、発達障害の二次障害としても出現しやすいことがわかつた。

アンケート結果

⑩ 「発達障害と司法」 安藤 久美子氏

- DBDマーチの研究が興味深いと思つた。
- 精神鑑定をされている立場から語られていて、安藤先生のような姿勢で障がいを持っている方と接する人がもっと増えれば未然に犯罪を防ぐことができるのだと思つた。また、共感の重要性も理解しました。
- 発達障害について学び少しは分かつてはつつもりでしたが、まだ一般常識に囚われて共感や寄り添えていないことを痛感しました。
- 症例を紹介しながらのお話しがイメージしやすく大変勉強になりました。特性を絡めて、具体的に話してもらえてよかつた。社会的に見て問題行動とされる行動の背景にある、障害当事者の生きづらさや困難を具体的にご教示いただき、今後現場で当事者と向き合う時の自らの姿勢を改めて考える機会となりました。ありがとうございました。
- 司法の事例を見聞きする機会が少なく、普段の病棟での患者様らの言動の先にこういつたケースがあることを知り、より早く気づくことや、嘘などへの理解、対応についてより重要性を感じる事ができた。
- 司法の心理検査や発達の特性のある方への関わり方は、医療や教育的な関わり方と異なると思つた。私は司法関係ではありませんが、例えば、家庭などご本人以外の環境からの影響も大きく、根拠法に基づいた福祉支援もあると思つた。実際には、個別具体的なものであるのかは難しい印象を持っています。医療だけではなく、広域的にご本人をみる事が高度かもしませんが、少なくともその意思をもつて支援していきたいと思つた。ありがとうございました。
- 障害がある方の司法への関係、また子供の支援をどのように行っていくかを学ぶことができた。今後の支援に役立てていきたいです。実際の症例に研修を展開していただいたため、発達障害への解像度が高まつた。
- 先生のお人柄と優しさや温かさを感じるご講義でした。ケースの紹介や体験もしつつの勉強で、わかりやすくあつという間の時間でした。対象者の背景を知り理解することの大切さが伝わってきました。聴講する側が理解、実感できるよう工夫して下さつたと感じます。またご講義頂きたいです。
- 現在、訪問看護で療育を提供しております。IQが僅かにグレーゾーンで不登校、居場所がない、居場所探しに奔走している家族、子どもたちが増えており義務教育後の生活などの不安が尽きない方もいらっしゃいます。話を聞くこと、たずねかたなど配慮しながら療育の日々です。
- 触法というだけでも偏つた見方となつてしまつてしまうようですが、そこに障害がからむとさらに偏見が増えてしまつような分野であると感じていました。しかし、犯罪行為の裏にその方の障害特性が隠れている場合があることが分かりました。障害についての知識があれば、なぜその方がこのようなことを行つたのか？理解する手助けとなるように思つた。表面的なものだけを受け取るのではなく、その裏側にどんなことがあるのか？しっかり知識をつけていきたいと思つた。
- 基礎的なことが多かつたかと思つたのですが、とても優しく話して下さり確認ができました。支援者の役割とは何なのか、この人なら、、、という視点の大切さを改めて感じる事が出来ました。発達障害の特性から来る行動に理解がない、誤解され犯罪気質のようにとらえられてしまつていることを知つた。理解しようとする姿勢が必要。
- 発達障害の基礎的な話と、その特性と犯罪の関係の話ばかりであつた。前者は医療従事者ならば全員知つている内容であり、復習のレベルであつたし、タイトルが「発達障害と司法」なのに「犯罪」の話ばかりで、タイトルと内容のミスマッチも残念であつた。
- 発達障害が罪を犯しやすいのではなく、犯罪に巻き込まれたり、仕事に就けなかつたり、窃盗をせざるを得ない状況に置かれやすいこともあるという事を忘れてはならない

アンケート結果

⑪ 「発達障害と学習障害」 藤堂 栄子氏

- ASD・ADHDよりもLDの方が多くを初めて知りました。不登校や生きづらさにつながるため、早期に支援へつなげることの重要性を感じました。
- ディスレクシアについて理解が深まり、特徴がよく分かりました。支援方法について、もう少し詳しく聞きたかったです。
- LDの基礎的理解から、実践的な支援方法まで学ぶことができました。
- 疑似体験を通して、LD当事者の困り感をより具体的に想像できました。感覚の違いは体験してみないと分からないと改めて実感し、相手の困り感を理解しようとする姿勢の大切さを感じました。
- 体験演習が特に印象に残りました。大人のLDに対するアセスメントツールについても知りたいと思いました。
- 学習障害の当事者や保護者の方から実践的なお話を伺うことができ、大変参考になりました。
- 発達障害への支援が強調される一方で、定型発達の子どもへの支援が十分でないように感じる場面もあります。
- ディスレクシアが誤解されやすい点を分かりやすく説明していただきました。具体的な支援方法や、支援を受けたことで評価を下げてはいけないという点が印象的でした。
- 苦手克服を強いるのではなく、得意を生かすためのICTツールを提供すること、そのままの自分でいられる居場所を守ることの大切さを学びました。
- 学習障害による生きづらさは、支援や環境調整によって軽減され、生活しやすくなることが分かりました。
- 視覚・聴覚から記号への変換が難しいため、本当は理解していても「勉強ができない」と誤解され、必要な支援が受けられないケースが多いと感じました。タブレット学習が進んでいるにもかかわらず、学校の理解が得られにくい現状もあると感じます。
- ディスレクシアの視点を体験する演習では、わずか10秒でやる気が低下し、投げ出しとなりました。これが毎日続くと思うと、不登校になる気持ちが理解できました。
- 教育現場では、LDの子どもの居場所がなく、支援に迷うことが多いと感じています。教員や大人がもっと知識を持って関わられる社会になってほしいと思いました。エッジの取り組みについても広めていきたいです。
- 診断がつかないまま困っている子どもや先生が多いと感じます。RTIの考え方からすると、診断の有無に関わらず、本人の困り感に応じて調整や変更を行うことが重要だと思いました。

アンケート結果

⑫ 「発達障害と当事者」 尾崎 ミオ氏

- はじめの方に話があったOSが違う、という説明に納得しました。楽しむことが大事だということ再認識しました。また私自身が信頼される大人になりたいと思いました。
- 当事者の方々のご意見が聞け、本当に困っていることが何なのか分かった
- 支援者の押し付けではなく、一人ひとり楽しく暮らせるような支援が大事ということを再確認できた。当事者のリアルな思いを聞かせていただいて、自身の支援の振り返りになりました。
- 発達障害当事者と一括りにしても困っていることや感じていることはそれぞれ違うことを改めて感じた。当事者が感じていらっしゃる支援者が見落としがちなのを、大変わかりやすく話していただいた。
- 当事者のお話を聞くことで、少しですが理解できたように思えた。社会に合わせる必要を教えることが支援でないということがわかったこと。
- 楽しさの追求、いまを楽しむことの大切さを改めて感じました。普通という枠にはめない関わりを心がけたいです。
- 親離れや子離れのことや、同じものを見ているようで視点が違うなど当事者ならではの視点で話していただけて、今後の支援を行う上で、とても良い学びになった。
- 熱心な無理解者、支援を受けることで自己肯定感が下がる矛盾という言葉にはとまりました。人によって様々な特性があるのに、自閉症を学ぶ過程でその枠に当てはめて捉えようとしていました。また、得意なことを伸ばして自己肯定感を上げるように支援する、と学習してきたため、自閉症の理解がその人の理解ではないという当たり前のことが抜け落ちていました。何かをしないと、と思うよりも否定せずに寄り添う基本を思い出すきっかけになりました。正しい支援より楽しい支援!!を忘れずにいたいと思います。ありがとうございました。
- 具体的で、実際的なお話がきけて、ASDの人でなくとも、自分の好きなことを大切にできる社会はいいなと思いました。みつけばのHPものぞいてみたいです。

後 期 総 括 (1)

【課題】

1. 参加者数の状況

相談支援研修は例年通り100名前後の参加があり、申込者数も100～150名と安定していた。一方で、医療機関向け研修は参加者が42名、48名、64名と低調であり、申込者数も70～90名程度に留まり、定員を満たさない状況が続いている。もともと医療機関向け研修は申込み・参加ともに少ない傾向があったが、本年度は特にその傾向が顕著であった。東京都による広報範囲の拡大も行われているものの、現時点では大きな効果にはつながっていない。

アンケートでは講師や講義内容への評価は前期同様に高く、内容そのものへの満足度は高い。医療機関における発達障害の認知度が依然として低く、必要性が十分に理解されていない可能性が考えられる。今後も広報の強化に加え、医療領域における発達障害理解の啓発を継続的に進める必要がある。

2. 参加者構成の変化

前期と同様に、相談支援研修・医療機関向け研修ともに医療機関からの参加が増加している。また、看護師や心理士など専門職の参加も増えており、福祉と医療の連携が進むことが期待される。教育機関からの参加はまだ少数ではあるが、両研修で一定数の参加が見られた。今後、教育機関への広報を強化することで、さらなる参加増加が見込まれる。

後 期 総 括 (2)

3. 講義中止への対応

講師の体調不良により一部講義が中止となったが、後日録画を行い、12月24日～1月12日に動画配信を実施した。視聴者数は不明であるものの、アンケートの回答や感謝のコメントが寄せられており、一定の活用があったと推測される。

なお、前期・昨年度同様に「見逃し配信」への要望はあったが、現状では実施しない方針である。

4. 開催方法・日程に関する評価

土曜日開催であること、繁忙期を避けていること、オンライン開催で移動が不要であることなど、全体として好意的な評価が多かった。オンライン開催については「自宅で集中できる」「感染症の心配がない」などの利点が挙げられた。

一方で、「平日開催を希望」「午前中で終えてほしい」「オンライン接続が難しかった」「こくちーずが使いにくい」「オンデマンドで好きな時間に視聴したい」などの意見もあった。

ただし、「オンラインで全5回視聴できた」「次年度も参加したい」といった肯定的な声も多く、現状の形式は概ね有効と考えられる。

5. 講義内容のバランス

前期には成人分野の講義を求める声が多かったが、後期では成人期支援を扱う講義を取り入れたことで、就労や成人期の課題に触れることができた。ただし、全体としては児童分野の講義が多く、今後はバランスの調整が必要である。

また、LD（学習障害）支援についての要望もあり、今回は医療・相談の講義内で一定の内容を扱ったが、今後さらに充実させる余地がある。

次年度に向けた改善点（1）

1. 研修内容の構成

今年度も研修内容への評価は高く、相談支援研修では「全5回受講した」という声が増えている。一方で、「毎年同じ講師ではなく変えてほしい」という意見も寄せられた。

参加者の期待はアンケートを基に把握しているが、肯定的な意見が多く、初参加者も多いため、基本的な内容を重視した現行構成を維持している。受講者との直接的なコミュニケーションが限られる中では、アンケートが最も重要な手がかりであり、来年度も同様に活用して構成を検討していく。

2. 成人期支援に関する講義の継続

昨年度は大人の発達障害に関する要望が多く、就労・大学支援・大人のデイサービスなどの講義は評価が高かった。これは、講師の内容が参加者のニーズと合致していたためと考えられる。

発達障害研修では幼児期・児童期の課題が多く取り上げられがちだが、成人期の課題は見えにくく、サービス不足やニーズとのミスマッチも背景にある可能性がある。成人期支援の講義は、現状理解を深めるためにも継続が望ましい。

3. 参加者数減少への対応

参加者数の減少に対しては、情報発信の強化が不可欠である。こくち一ず經由の参加が多い一方で、東京都のホームページや行政からの案内を見て参加したという声も増えている。

正夢の会としてもホームページやSNSで告知を行っているが、今後はできる限り早期に年間スケジュールを公表し、参加しやすい環境を整えることが重要である。

また、医療領域における発達障害の認識向上は喫緊の課題であり、特に成人期の発達障害は理解が進んでいない。本人の困り感から初めて発達障害が疑われるケースも多く、広く情報提供を行う必要がある。

次年度に向けた改善点（2）

4. 次回内容への要望（アンケートより）

- ASD・ADHDの行動問題の理解（事例を用いて）
- 強度行動障害の支援、行動分析を含む事例紹介
- 児童期から社会への移行支援
- Vineland、PCESなど心理職・支援者のスキルアップにつながるアセスメントツール
- 専門職が不在でも実施可能なアセスメントの知識と実践
- 企業支援の実例
- 家族支援のモデル
- 支援者のバーンアウト予防
- 思春期の発達障害
- 読み書き障害（SLD）と不登校、その支援
- 児童思春期における多職種連携と各職種の役割

5. 研修構成・運営面

「午前・午後にまたがるのは長い」「休憩が短い」といった意見もあったが、全体構成を考えると現状維持が妥当と考えられる。

参加者の知識レベルが幅広いため、基礎編・応用編のような段階的構成を検討する必要がある。また、「もっと深く知りたい」「時間があれば詳細を開きたかった」という声もあり、内容の深度調整も課題である。

双方向性を求める意見もあり、質問時間の確保や事前質問の受付などが挙げられたが、講義時間や事務局体制を考えると現状では難しい部分もある。